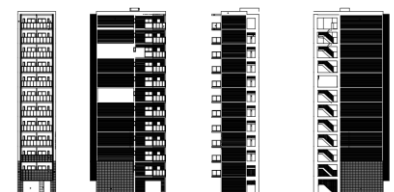


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境 2016年版、省エネルギー環境性能評価システムマニュアル2016 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋市中区伊勢山1丁目 新築工事	階数	地上14F
建設地	愛知県名古屋市中区伊勢山一丁目808番1、809番	構造	RC造
用途地域	準防火地域	平均居住人員	70 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年4月 予定	評価の実施日	2025年6月20日
敷地面積	342 m ²	作成者	
建築面積	171 m ²	確認日	2025年6月24日
延床面積	2,181 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE = 1.1 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★ 環境効率 BEE 環境負荷 L	標準計算 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超: ☆ ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法 0 46 92 (kg-CO₂/年・m²) このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q2 サービス性能 Q1 室内環境 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.4 音環境 3.3 温熱環境 3.1 光・視環境 3.6 空気質環境 3.9 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2 機能性 3.6 耐用性・信頼性 3.2 対応性・更新性 2.7 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2 生物環境 1.0 まちなみ・景観 3.0 地域性・アメニティ 2.5
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.5 建物外皮の熱負荷 4.0 自然エネルギー 2.0 設備システム効率化 3.6 効率的運用 3.5 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.4 水資源保護 3.0 非再生材料の使用削減 3.7 汚染物質回避 3.0 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8 地球温暖化への配慮 3.1 地域環境への配慮 2.4 周辺環境への配慮 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
●省エネルギー設備を採用し環境に配慮した。		●特になし。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
●シックハウス対策としてF☆☆☆☆を全面的に採用。節水型トイレ、エネファーム、節湯器具を採用。	●外装仕上げにタイル貼りを採用、配管の更新期間にも配慮した。	●できる限り緑化採用に配慮した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
●換気にDCモーターの採用、節湯水栓も採用し省エネルギー設備に配慮した。	●ハロン消火剤を使用せず、地球温暖化に配慮した。	●屋上広告を一切なくし、光害対策に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋市中区伊勢山1丁目 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.3
LR1	エネルギー	3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.1	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.3



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。